



フィンランドにおけるヘルスケア×AI

国際社会経済研究所(NECグループ) 主幹研究員

遊間 和子



も含めたオープンなエコシステム構築から新たな、HUSに加えて1200人のイノベーションを生み出すことにある。



HEALTH CAPITAL HELSINKI

フィンランドでは、ヘルスケア分野の人工知能(AI)活用を国家的に進めていくために、フィンランド国立技術研究センターVTTが戦略研究アシエンダ「AI for Good Life」を2017年に取りまとめ、ここで示されたヘルスケア分野のAI適用領域とその優先順位に従って、研究開発予算が振り分けられている。Business

Finland(18年1月にフィンランド技術庁TEKESから改組)は、AI関連の研究開発に4年間で約1億円の拠出を決定しており、ヘルスケア分野はその中でも大きな領域となっている。

治療支援モデル

フィンランドのヘルスケア分野のAI活用の特徴は、海外企業を

よる脳出血検出、②個別化されたがん治療、③早産児の重度細菌感染の早期発見の三つのAIプロジェクトが

開始されている。また、HUSに加えて1200人のイノベーションを生み出すことにある。

Business Finland(18年1月にフィンランド技術庁TEKESから改組)は、AI関連の研究開発に4年間で約1億円の拠出を決定しており、ヘルスケア分野はその中でも大きな領域となっている。

Finlandは、17年1月にフィンランド技術庁TEKESから改組)は、AI関連の研究開発に4年間で約1億円の拠出を決定しており、ヘルスケア分野はその中でも大きな領域となっている。

中小の実力向上

地域医療圏HUSと豊富なヘルスケアデータを活用するForsanteは、蓄積された患者データや検査結果データをオープンにする

協働で革新的AI開発へ

ヘルシンキ大学病院

PR)により個人データ保護が強化されることを受け、ヘルスケアデータの二次利用を円滑化する国内法を整備中であり、自国がヘルスケアデータを活用したビジネスを行う場として最適であることとしてEUの指示を受けている。

医療機器認証であるCEマーク取得済みで、国内において既に複数の病院で採用されており、活躍が期待される企業である。

データを利活用

ヘルスケア分野のAI活用を積極的に進めるには、質の高い大量のデータを利活用できる基盤が必須である。

フィンランドでは、5月施行のEUの「一般データ保護規則(GDPR)」により個人データ保護が強化されることを受け、ヘルスケアデータの二次利用を円滑化する国内法を整備中であり、自国がヘルスケアデータを活用したビジネスを行う場として最適であることとしてEUの指示を受けている。

(金曜日に掲載)